

2017年5月16日

近畿労働金庫  
理事長 山下 博司 様

## 「2016年度近畿ろうきんNPOアワード」選考結果報告書

2016年度近畿ろうきんNPOアワード審査委員会  
審査委員長 菊地 栄男

去る2017年3月31日に開催された「2016年度近畿ろうきんNPOアワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下の通り報告いたします。

### 1. 審査にあたって

今回審査にあたっては、2017年1月31日の募集締め切りの後、当金庫の事務局から事前送付された応募書類をもとに各委員が事前の書類審査を行ったうえで、3月31日に開催した審査委員会において各受賞団体を決定しました。

審査委員会には審査委員5名全員が出席し、互選により審査委員長を選出したうえ、審査委員会指針に則って合議を進め、大賞1団体、優秀賞2団体、奨励賞5団体を決定しました。さらに、小規模な団体向けのはぐくみコースから、はぐくみ賞として5団体を決定しました。

審査委員は下記の通りです（敬称略）。

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外れることとしましたが、該当する審査委員はいませんでした。

- 審査委員長 菊地 栄男 （近畿労働金庫 近畿推進会議 議長）
- 審査委員 岡本 瑞子 （特定非営利活動法人子どもNPO和歌山県センター 理事長）  
山縣 文治 （関西大学 人間健康学部 教授）  
吉村 恵理子 （公益財団法人コープともしびボランティア振興財団 事務局 局長）  
浦田 和久 （近畿労働金庫 地域共生推進室 室長）

### 2. 決定、総評

本アワードは子育て支援をテーマに実施し、近畿一円から総計50件ものプラン応募がありました。そのうち、新しい団体や活動規模は小さくとも地域のために頑張っている団体を応援する「はぐくみコース」の応募・19件が含まれています。どの応募も甲乙つけがたい状況で、審査委員会での助成団体の決定にはたいへん熟慮を要しました。

2016年度の応募内容の特徴は、前年度に引き続き、今日の社会状況を強く反映して、「子どもの貧困」をテーマとし、深刻な経済事情にある子育て環境を支援する事業企画が目立ちました。また、社会のセーフティネットが届かない子どもたちに着目した取り組みや、多文化共生をめざす取り組みなど、さまざまな分野からの事業企画が提出され、本アワードの

存在が、対象となる幅広い団体に知られてきた結果だといえます。また、はぐくみコースには、小規模な団体であるものの今後の成長に期待できるプランの応募がいくつもあり、少ない財源の中で真摯に活動を進める市民活動団体にとって、本アワードのような助成が必要であることが改めて確認することができました。

審査にあたっては、「事業の先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」「共感と市民参加」「資金計画の妥当性」「新規チャレンジ性」などの項目に加えて、「実施団体の継続性」や「運営体制」、「活動履歴」や「市民主体性」の項目も基準に審査委員の真摯な協議によって総合的な判断を行いました。地域の課題に真剣に向き合う応募企画の中から受賞団体を決定した訳ですが、はばたきコースでは、〈大賞〉・〈優秀賞〉を受賞した3団体は、企画内容の社会性や実現性に加え、それぞれの特色を活かした創意工夫や今後の発展性が高く評価されました。この3団体とは僅差ではありましたが、社会性・独自性などの点で高く評価された5団体を〈奨励賞〉に決定しました。はぐくみコースでは、地域に根差して地道に取り組む事業プランの5団体を〈はぐくみ賞〉としました。なお、今回、優秀賞の助成予定金額より申請額が低い事業プランが受賞となったため、はぐくみ賞を当初予定の4団体から5団体に増やして、小規模団体への幅広い支援としました。（※各受賞団体の事業プランや選考の講評については、次ページ以降をご確認ください）

また、この他、選にもれた団体についても、その事業や熱意は受賞団体に匹敵するものであったことを付け加えておきます。

### 3. 今後への提言として

「近畿ろうきんNPOアワード」は、働く仲間の教育ローン利用の促進が、子どもたちの未来と地域の子育て支援に連動するという仕組みをめざして、公募型の助成プログラムとして実施され、今回で12回を数えました。

応募プランは、いずれも社会的ニーズに基づいた切実なものばかりで、「子育て支援」が勤労者にとっても共通する社会テーマであり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支える《ろうきん運動》にとっても大きなテーマであり、まさに《ろうきん》に相応しい事業であると考えています。

審査委員一同として、「近畿ろうきんNPOアワード」のような《ろうきん》の特性を生かした地域貢献型・利用者参加型の事業を継続いただきたいと強く要請する次第です。2015年度からスタートした金庫の第6次中期経営計画では、「共助と共生」を柱とする共生戦略を通して「すべての勤労者の笑顔のために」が掲げられています。このためのアプローチの一つとして、本アワードでの「子どもたちの未来の応援」はまさに相応しいテーマだと実感します。また、会員推進機構と一体となって進む《ろうきん》として、社会に役立つこうしたプログラムが実践されていることを各会員労働組合にも是非しっかりと伝えていければと考えます。こうしたアナウンスにもさらに善処いただければと思います。

なお、本アワードの2017年度応募に向けて、これまで営利型の団体が含まれているとして認めてこなかった一般社団の団体も「非営利型」については対象団体に加えること、重複記載となっている申請書の項目の見直しを行うことなど、改善課題について審査委員会で議論しましたことを付記しておきます。